

地震一口メモ No. 208

11月5日は「世界津波の日」

この機会に津波について改めて基礎から学んでみましょう

世界中で津波によってもたらされるリスクに関する人々の意識を向上し、津波対策を強化するため、日本をはじめとする世界142カ国の共同提案により、2015年の第70回国連総会本会議で、毎年11月5日を「世界津波の日」と制定することが決められました。また日本でも「津波防災の日」と定められています。11月5日を指定することは、津波から多くの命を救った有名な逸話「稲むらの火」に由来しています。これは安政南海地震（1854年11月5日）の際に、和歌山県で、津波を察知した一人の村人が自らの収穫した稲むらに火をつけることで危険を知らせ、避難させたことにより村民の命を救い、被災地のより良い復興に尽力した、という実話に基づく話です。

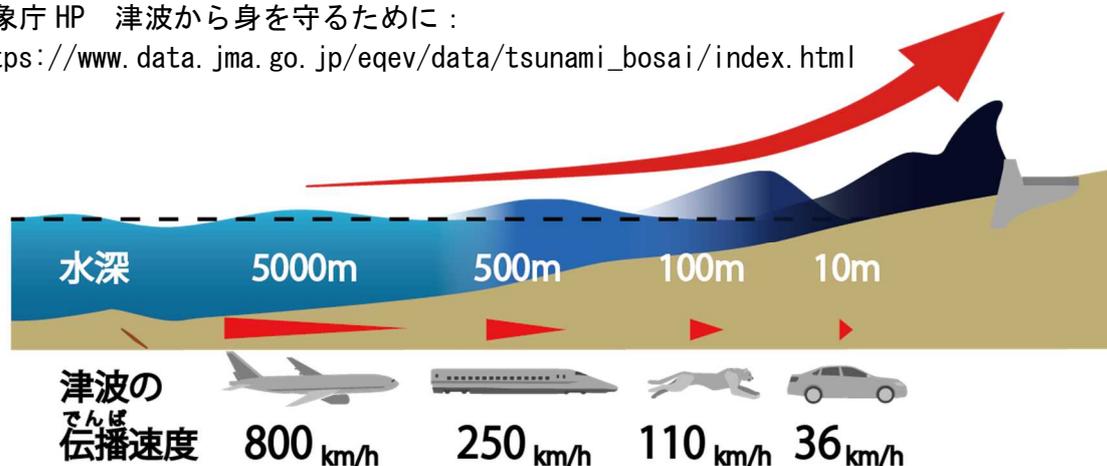
この機会に、津波について改めて学び、正しく理解して防災対策に活かしましょう。津波は、地震などによって生じた海底の隆起・沈降に伴い発生した海水の波が、四方八方へ広がり伝わっていく現象です。津波の以下の特徴に留意しましょう。

- ❖ 沿岸に近づき水深が浅くなるにつれ、急激に波高が高くなります。
- ❖ 津波の伝播速度は非常に速く、見てから逃げるのでは間に合いません。
- ❖ 周辺の地形により反射や屈折を経て繰り返し襲ってきます。後から来る津波の方が高くなることもあります。
- ❖ 津波の力は非常に強く、高さが50cm程度の津波であっても立っていられず、流されてしまいます。
- ❖ 津波は「引き」から始まるとは限りません。“潮が引いたら逃げればよい”というのとは大きな間違いです。
- ❖ 沿岸の地形の影響などにより、局所的に高くなることもあります。
- ❖ 潮位変化が始まってから最大波が観測されるまで数時間以上かかることもあります。

大津波警報・津波警報・津波注意報を見聞きしたり、海辺で強い揺れを感じたり、長くゆっくりした揺れを感じたりしたら、実際に津波が見えなくても海辺から離れ、より高い安全な場所へ避難しましょう。

気象庁 HP 津波から身を守るために：

https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/tsunami_bosai/index.html



図：津波の伝播速度（気象庁 HP より）

津波について正しく理解して、津波対策を進めましょう
いつ津波が発生しても身を守ることができるように、日頃から備えておきましょう